

# サバサマを追う

北浦地区に伝わる初夏の伝統行事「サバサマ」が県の無形民俗文化財に指定された。広域にわたり人型が各地に送り継がれる行事は全国的にもめずらしいという。サバサマがいつどのように送られていくのだろうか。今年も7月3日に出発したのでその後を追ってみた。



## サバサマ送りとは

サバサマ送りは長門市東深川飯山八幡宮に江戸時代から伝わる虫送りの年中行事である。毎年、藤中地区の有志の人たちが、田植えが終わる6月下旬に騎馬武者人形を製作し、7月上旬に飯山八幡宮を出発する。

人形は竹の芯と藁で作られており、サバサマとサネモリサマの同じものが2体作られるが、2体を総称して「サバサマ」と呼ばれる事が多い。サバサマは、稲の害虫ウンカが神格化したもので、サネモリサマは源平合戦で討ち死にした齋藤実盛を指すといわれている。伝説では、齋藤実盛は篠原の戦い（石川県）で、稲の切り株に足をとられて討たれたため、その怨念が稲の害虫になったという。

## 製作から出発まで

今年も、6月21日に人形の製作が神社の社務所で行われた。人形が完成すると和紙に描かれた顔と紙の兜、陣羽織、竹で作られた刀が添えられ、腰にはオ

ゴクと呼ばれる弁当が結ばれる。引き受け地区の有志が、2体の人形を境川を経由して日置長崎まで運ぶ。引き受け地区は、藤中、江良、中山、上郷の順番で行われている。今年も江良地区。運ぶときは、人形の馬をかつぎ、のぼりを立て、鐘や太鼓で囃しながら歩く。

## いよいよ出発

虫除け神事を終えたサバサマは、7月3日に飯山八幡宮を出発。境川では、二カ所で人形の腰につけられたオゴクが地区の人に配られた。オゴクは和紙に包まれたご飯で、これを食べると夏の間病気になるといういわれがある。そして、サバサマは、最初の中継地である、日置地区長崎のJR線路下すい道の中に置かれ、ここで次の地区の人たちが運んでくれるのを待つのである。

それからは、黄波戸、古市、久富、人丸、河原、伊上を経て、下関市豊北町へ入る。豊北町内のルートは、粟野からは阿川を経て二見に達するルートと、粟野川沿いに南下し滝部を経由し

て二見に達するルートとがあるようだが、最近では伊上子供会の置く位置により阿川を経由することが多い。

サバサマを置く場所は概ね決まっており、運び役は子どもでもない地区もあり自動車で運ばれることも多くなった。子どもたちは「サバサマオークレ、サネモリサマオートモヨ」などと歌いながら運んだとされるが最近では廃れたようだ。運ぶところを見られてはいけないのでこっそり運ぶという地区もあるようだが、子供会の行事になつてくると、子どもも多くなり、夕方方の明るい時間に運ばれる。

## 最後はどうなる

豊浦町史には「最後は犬鳴海岸の絶壁から藁人形を『からへいけ、からへいけ』と唱えて海に落として、すべての虫送りを終わる」とあるが、ぼろぼろになった時点で海に流されたり焼却されたりすることもあるらしい。海へ流すときには「サバサマ、カラヘイケ」と唱える慣わしになつてくるといふ。



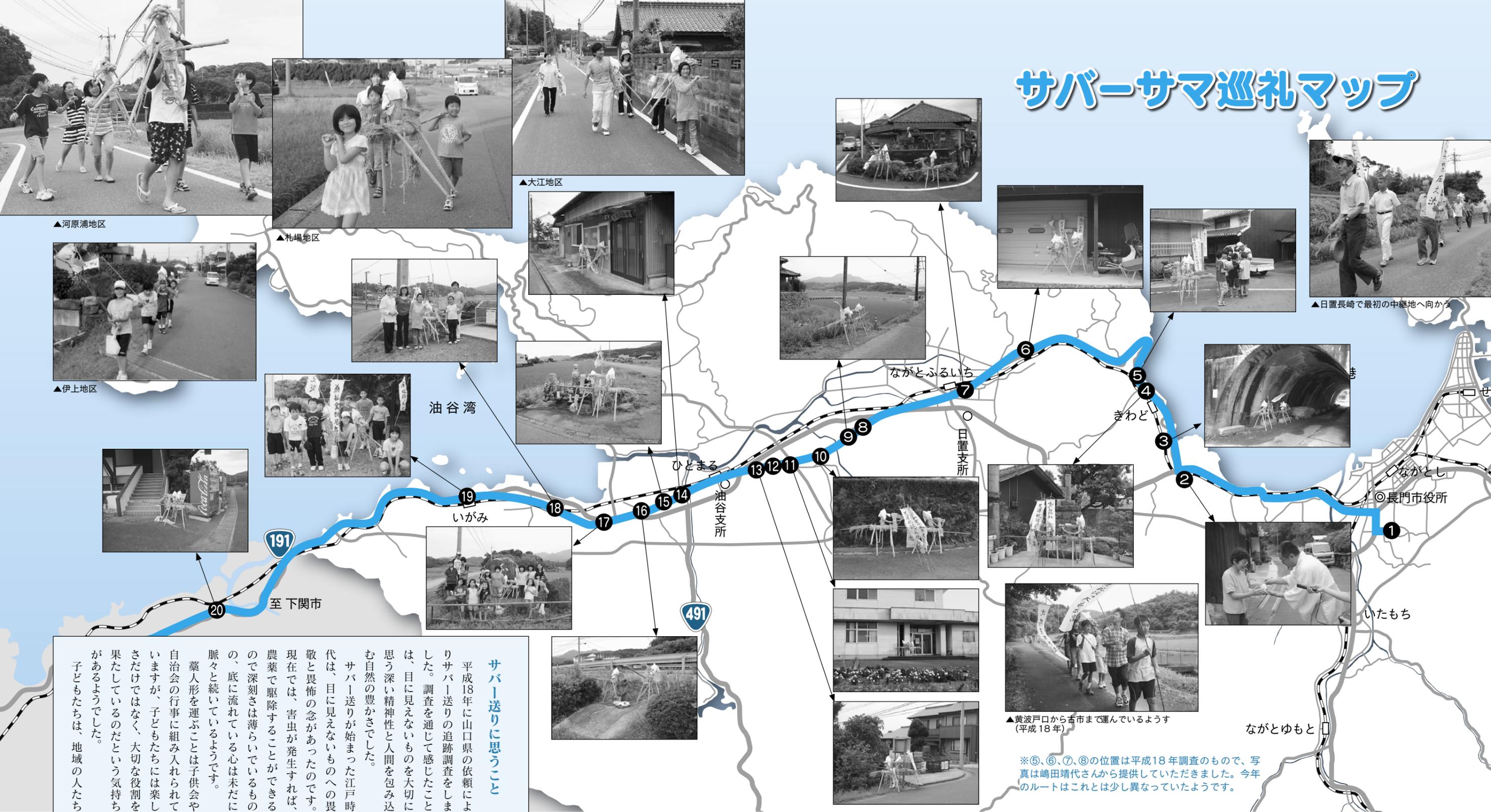
上/武者人形の製作は、人と馬に別れて作業が進められる。昔は、先輩による指導が厳しく叱られながら作った、と思ひ出話をしてくださった。  
下/人の頭の部分。今は麻縄を使うので昔よりはしっかりできあがるとのこと。



出発の前の神事。今年の引き受け江良地区のみなさん。このときサバサマとサネモリサマは祭壇に置かれている。



# サバーサマ巡礼マップ



▲河原浦地区

▲札場地区

▲大江地区

▲伊上地区

▲日置長崎で最初の中継地へ向かう

▲黄波戸口から古市まで運んでいるようす (平成18年)

**サバー送りに思うこと**

平成18年に山口県の依頼によりサバー送りの追跡調査をしました。調査を通じて感じたことは、目に見えないものを大切に思う深い精神性と人間を包み込む自然の豊かさでした。

サバー送りが始まった江戸時代は、目に見えないものへの畏敬と畏怖の念があったのです。現在では、害虫が発生すれば、農薬で駆除することができると、底に流れている心は未だに脈々と続いているようです。

藁人形を運ぶことは子供会や自治会の行事に組み入れられています。子どもたちには楽しさだけでなく、大切な役割を果たしているのだという気持ちがあるようでした。

子どもたちは、地域の人たちの



嶋田靖代さん (江良)

の思いを感じつつ、地域の人たちも子どもたちをあたたく見守りながらサバー送りを支えていることが伝わってきました。

地域力の低下が危惧されている昨今ですが、この行事では地域の人たちが子どもたちを育てていることを実感しました。

もう一つ大切なことは、この北浦の豊かな自然です。緑の田園、道の辺の草花、容赦なく降る雨さえも。親子で語らいながらくちなしの香る道をサバーサマをかつぎ、幟を抱えて歩いたことは、貴重な体験となることでしょう。

- 20** 7月13日(月) 下関市栗野
- 18** 7月11日(土) 浅井踏み切り 付近のゴミステーション横
- 17** 7月11日(土) 大江集会所石碑前 河原浦から引き継いで子どもたちが浅井まで運ぶ
- 16** 7月11日(土) 河原浦道祖神 夕方に子どもたちが運ぶ
- 15** 7月9日(木) 札場 地蔵様横 10日夕方に子どもたちが河原浦まで運ぶ
- 14** 7月8日(水) 大坊公会堂
- 13** 7月7日(火) 新別名ゴミステーション横
- 12** 7月7日(火) 人丸 藤田商店 斜め前空き地
- 11** 7月6日(月) 稲石 油谷生活改善センター前
- 10** " 長久
- 9** 7月5日(日) 荒人交差点付近 夕方に地元の人が次へ運ぶ
- 8** " 日置峠山
- 7** " 古市 古市駅前
- 6** 7月4日(土) 黄波戸口
- 5** " 黄波戸 大津醤油本工場前
- 4** " 黄波戸 石碑の前
- 3** " 長崎 JR線路下すい道 夕方に地元の人が次へ運ぶ
- 2** " 境川 三輪さん宅前でオゴクを配る。さらに移動してもうひとつのオゴクを配る
- 1** 7月3日(金) 飯山八幡宮出発

※⑤、⑥、⑦、⑧の位置は平成18年調査のもので、写真は嶋田靖代さんから提供していただきました。今年のルートはこれとは少し異なっていたようです。

## サバー送りの行程